

今月の論語

勞して 怨みず

嫌なことがあっても、不服  
そうな顔をしない。

今月の楠宅放送は、東原岸中央校9年の小松愛奈さんです

野の仏ギャラリー ②

如意輪観音坐像

南多久町龍照寺

光背、坐像、蓮華台が一体化して造られています。光背に頭光が線彫りされ、頭上に文様を持つ宝冠を載せています。額に白毫があります。胸飾りがあり、腕と手首に釧(円環状の飾り)を着けています。左手に蓮華を持ち、右手は施無畏印の形です。坐り方は、通例の右膝を立てる形ではなく、右足裏が中央に見えます。如意輪観音は観世音菩薩の変化観音で、六観音の一つです。



銘「七番二臂如意輪観音 朝鮮中清南道星仙郡尾張町李三郎」

多久市郷土資料館長 藤井伸幸

- 白毫は白い毛で光明を放ちます。
- 施無畏印は畏れなくともよいという印です。
- 銘の七番は西国三十三所の奈良原龍蓋寺(岡寺)です。
- 銘の中清は忠清と考えられます。

連載

教育長コラム

ちよっとい話



十年

未だに、そのお姿を発見してあげられない2,529名の方々のご家族に、心から寄り添いたい。東日本大震災から十年。親の姿に手も合わせられず、子を抱きしめることもできない方々の十年。忘れないのは、あの惨禍当時、中学3年だった生徒たち。高校進学を自ら取りやめ、「親を助ける、家族の力になる」と就職を選んだ生徒が少なくなかった。夢に見た高校生活を目前にしながら断念して十年、がむしやりに生きただろう。毎年、東北でボランティア活動をした多久市勤務の教頭が「何を見つけた時が一番喜ばれると思いますか」と尋ねるので、写真と答えたら「いいえ、骨です。被災者の方は、行方不明の家族の骨が一部でも発見されることが一番喜ばれます」とのこと。深い、重い言葉。それぞれの人々に、等しく十年が流れた。避難所での暮らしが一日も早く解消できますように、そこに知恵と力を注ぐ国でありますように。

教育長 田原優子

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆ コロナ禍で空欄目立つ予定帖  
趣味の楽しみ中止がさびし  
梶原恵美子
- ◆ 厨より裸木の増えし林見ゆ  
淡雪すがしひねもす降りり  
浦野 嘉恵
- ◆ 僕たちは同じ所で躓いて  
それでも前へ歩み続ける  
野崎 隆幸
- ◆ コロナ禍よこれ以上には騒がしく  
ならぬようにと初陽に祈る  
川浪 信子
- ◆ 「儂い」の語義を論じて居し彼が  
友ら残してこの春去りぬ  
尾形 節子

俳句 《互選》

- ◆ 玄関にきりりと締まる注連飾  
武富 律子
- ◆ 小競り合ひありて整ふ鴨の陣  
中嶋 清子
- ◆ 一朝の祈りささぐる数珠の凍て  
富樫 明美
- ◆ 冬ざれや向ひの家の早灯  
本村 則子
- ◆ 這ひ這ひの児の足裏に日脚伸ぶ  
おおやはな

川柳 《多久市川柳会互選》

- ◆ コップ酒底に沈んでいる不満  
田代まつこ
- ◆ 飲み会にすり替えられる反省会  
大谷 和
- ◆ 当選は金の力で買いました  
高塚ちかこ
- ◆ 力瘤隠して母は化粧する  
三塩不二子
- ◆ 慎ましく生きた人生花一輪  
西山 残月